

1. 医の倫理的問題等を含め、医師としての必修事項を必修問題として出題する。ただし、出題範囲を医師国家試験出題基準の「必修の基本的事項」に限定する。
2. 患者の死亡や不可逆的な臓器の機能廃絶に直結する事項等を新たに禁忌肢問題として出題する。
3. 受験者の知識量を正確に反映させるために、当面、長文問題に五肢複択形式 (X 2, X 3 type) を導入する。
4. なお、合否判定に当たっては、必修問題、禁忌肢問題の新たな取扱いを設けるとともに、適切な領域を設け、領域別の判定を導入することが望ましい。
 今後は、今回の改善結果を踏まえながら更に改良を加えるための検討を進めるとともに、試験問題形式の改良等、検討すべき事項について逐次審議していくこととする。

資料 7：医師国家試験の回数別合格者数

厚生省

回数	施行年月日	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率 (%)
90	8. 3. 16~17	9,057	8,088	89.3
91	9. 3. 15~16	8,898	7,843	88.1
92	10. 3. 20~21	8,716	7,806	89.6
累 計 (1回~91回)		337,388	281,734	83.5

資料 8：医療関係者審議会医師部会意見

厚生省* (平 8.4.10)

今回の医師国家試験の改善では、医師国家試験出題基準の改定と併せて、医の倫理やプライマリ・ケアなど、医療に第一歩を踏み出す医師としての基本的知識・技能をより適正に評価できるよう必要な改善が図られた。

については、漸次改善の実をあげながら、次期改定を目指すこととするが、平成 9 年からの試験に際しては、

卒前教育の実情を踏まえ、かつ、以下の点に留意して実施に当たるものとする。

1. 試験問題数は、従来どおり 320 題とし、内訳は、必修問題 30 題、一般問題 180 題、臨床実地問題 110 題とする。
2. 必修問題については、医の倫理問題等を含め、医学・医療の必修事項を総合的に出題する。

* 医療関係者審議会医師部会、部会長：高久史麿